

編集後記

○令和2年度前期科目「グローバル・イシュー研究演習I」(履修者118名)は、コロナ禍の影響で、当初の予定を変更し、「HANDSの原点」ともいえる『栃木県における外国人児童生徒教育の明日を考える』(2009年度)をテキストとする授業に切り替えた。学生は10週かけて10のエッセーを読み、10のレポートを提出した。レポートを読む限り、「HANDSの原点」は何らかの強いメッセージを学生に伝えたようだ。「原点から10年」。7月30日の授業では、学生たちにHANDS10年の歩みに触れてもらいたく、二校グラを見せながら、156頁に及ぶ本書の内容を猛スピードで紹介した。原点から歩み、そして、現状へ。学生からは嬉しい感想が寄せられた。「意外だったで」賞、紹介。

HANDS事業は始まって10年になるがどこまで続いていくのだろうと思った。10年の時点で田巻先生は焦りを感じているとおっしゃっていたが、何か真新しいことを始めたりするのか、それとも今のままで成果を積み上げ大きなものにしていくのか、田巻先生の今後の野望が授業を通してさらに気になった。

最近、とても嬉しかったこと。「先生はへこたれない人ですから」と敬愛する人に言われたこと…今回も楽しく集中できた編集作業が無事終わりそうです。鄭安君さんと小野寺櫻子さんのアイデアとテキパキとした仕事ぶりに大いに助けられました。そして、橋本剛さんと代田早紀子さんには、いつものように大感謝です(田巻 松雄)。

△ 『HANDS10年史』は学内外より60名以上の方々「声」を頂きました。中には「H」AND「S」という形で「HANDS」の役割と意味合いに対して、新たな解釈を加えた方もいらっしゃいました。編集作業を通して皆様からの「声」を読ませていただき、「HANDS」および『HANDS10年史』は、「Hear(聞く)」と「Share(分かち合う)」のためでもあると強く感じました:「HEAR your voices, AND, SHARE our minds together(皆さんの声を聞き、皆さんと意見を分かち合う)」。『HANDS』の10分の1に参加できたこと、大変うれしく思います(鄭 安君)。

□ 2020年4月の下旬、『HANDS10年史』についての構想を田巻教授から聞かされたときは、正直、何をどうしていくのか見当もつきませんでした。次々に出される教授の具体的な指示により、漠然としていたものがどんどん形になっていきました。私にとっては「初めて」の連続で大変な作業もありましたが、この経験は大きな自信になったと思います。HANDSのこれまでの活動内容などとても勉強になりました。「HAND10年史」刊行に携わることができとても光栄です(小野寺 櫻子)。

2020年8月31日刊行

研究代表者 田巻松雄

本書は、日本学術振興会2020度科学研究費補助金基盤研究(A)「外国人生徒の学びの場に関する研究—特別定員学校と定時制通信制課程の全国調査」(課題番号19H00604、研究代表者田巻松雄)の研究成果の一部である。

〒321-8505 宇都宮市峰町350 宇都宮大学国際学部
田巻研究室:tamakimm@cc.utsunomiya-u.ac.jp
電話／ファックス 028-649-5191

印刷・製本 株式会社ヴォーグ
装丁 デザインジェム
